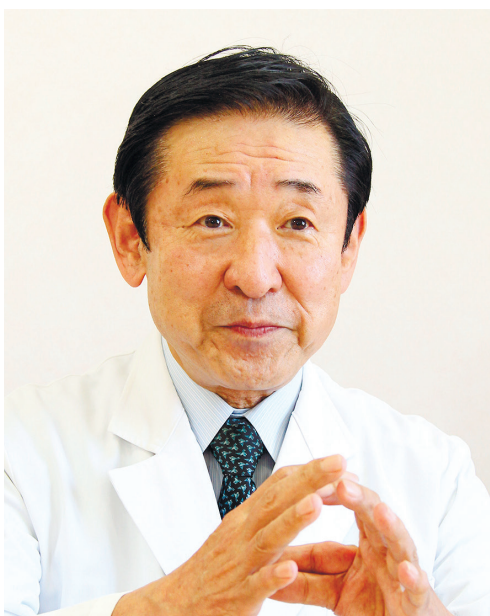




うえお乳腺外科 理事長

上尾 裕昭氏

乳がんにもコロナにも負けずに

乳がん患者とスタッフのため、新型コロナウイルス対策には細心の注意を払う。従来は、入院中でも日常生活との落差のないようにと私服、お化粧、携帯電話とともに、1日2時間の散歩・外出を許可していたが現在は外出は必要最小限で病棟面会者も規制。院内の説明会や体操教室は中断した。さまざまな制限の中で、家族や友人と自由にオンラインでつながれるようにWi-Fi環境を昨年

5月に整備し、入院患者に喜ばれている。また「こんな時こそユーモアを」と、患者やスタッフから川柳、謎掛け、〴〵なかのユーモア作品を募集し45作品を院内に掲示した。「いずれもコロナ時代の副産物です」とほほ笑む。

2002年の開院以来、乳がん手術は4700件を超えた。コロナ禍で医師の学会出張が減り、むしろ手術のペースが速まっているという。看護目標の「母の

ように 姉妹のように 娘のように」を胸に、スタッフが一丸となって乳がん患者をサポート。「涙をなくして、前向きに病気を乗り切ってほしい。コロナ禍もみんなで乗り切るしかない」と語る。

昨年4月、理事長と兼任してきた院長職を甲斐裕一郎副院長に託し、久保田陽子外来医長が副院長に就任。全幅の信頼を寄せる2人との新体制をスタートさせた。さらに非常勤の女性医師2人と、コロナ禍で現在は足止めされているが、九州大病院（福岡市）で乳腺外科の担当医として勤務する長男の上尾裕紀医師も

月1回のペースで出向し、病院を支えている。

肩書きが一つになった今も診療や手術、研究のペースは変わらない。上尾裕紀医師が中心の「乳がん組織を光らせる蛍光診断」の研究成果は、15年に英科学誌電子版「サイエンティフィックリポート」に掲載された。19年にはベンチャー企業主導の臨床試験が国内4施設で実施され、昨年5月には厚生労働省に認可申請された。「蛍光診断で診断時間やコストが削減できれば、手術患者さんの負担を減らすことができる」と期待を寄せている。



病院スタッフからプレゼントされた絵

病院DATA

●診療科目
乳腺外科

●診療時間(完全予約制)
月・火・水・金・土／8:30～12:00、13:30～15:30

●休診日
木曜、日曜、祝日



うえお乳腺外科

大分市二又町1-3-5
TEL097-514-0025
<http://www.oita-mamma.jp>

